

# 自己紹介書

2014年7月18日 友川幸

## これまでの経験や業績

私は、日本と開発途上国の双方で、子どもの健康問題の改善のために研究、教育、国際支援の3つを行うことのできる人材となることを目指してきた。大学院の修士課程では、開発途上国での教育開発（特に、学校保健、健康教育）を専門的に学んだ。また、在学中に国際協力機構の青年海外協力隊事業に参加し、西アフリカのニジェールで、学校保健システムの普及、健康教育の教員研修、教材開発等の業務に従事した。また、博士課程では、保健学を専攻し、在学中に東南アジアのラオスの農村部に長期滞在して、現地の子どもの健康問題である寄生虫感染の罹患要因を明らかにするための研究・実践活動を行った。現地の生活や文化に触れながら、フランス語、ラオス語および英語を習得し、現地の子どもを取り巻く社会や文化などを包括的に理解するフィールドワークを行ってきた。信州大学に就職してからも、東南アジア（タイ、ラオス）、南アジア（ネパール）、東アフリカ（ケニア）の開発途上国において、学校保健、健康、環境教育に関する研究と実践を行ってきた。具体的には、学校保健に関する政策、人材養成、カリキュラム・教材開発、子どもの健康問題に関するアセスメント、子どもの健康問題を改善するための疫学的研究とそれを踏まえた予防教育の開発と実施（写真1）、子どもから子どもへの健康関連知識や衛生習慣の獲得の必要性を普及させていくアプローチ（写真2）の有効性に関する研究を行ってきた。

また、文末の表1に示す通り、国際協力機構からの委託等により、現地の当該分野の研究者や政府関係者と協力して、学校保健の政策改訂、健康教育や環境教育に関する教材開発と教員研修を行ってきた。またマヒドン大学やロンドン大学と協力して、学校保健活動を普及させていくために、アジアおよびアフリカ地域の行政官・国際NGOおよび研究者を対象とした学校保健地域研修の企画実施、地域内での学校保健ネットワークの構築、人材養成を行ってきた。



写真1：農村部での寄生虫感染の予防教育(ラオス)



写真2：子どもから子どもへの衛生知識の普及(ニジェール)

## 現在の業務や研究内容

現在は、日本の教員養成機関に勤務し、将来、教師を目指す学生に学校保健、公衆衛生学、健康教育、環境教育等を指導している。また、ラオス、ケニア、バングラデシュ等の開発途上国において、子どもの栄養状態や成長発達状態の把握や、国ごとに傾向が異なる子どもの成長発達曲線を開発することを目的として、教員研修のプログラムや研修用教材を含む健康診断システムの開発に取り組んでいる（写真3）。また、学校での子



写真3：小学校での健康診断(ラオス)



写真4：小学校の子どもによる水管理(ケニア)



写真5：ゴミと健康に関する教材開発(ラオス)



写真6：教員養成校での授業研究(ラオス)

どもを主体とした健康増進活動の効果や課題に関する研究（写真4）、教員養成機関向けの健康教育や環境教育の教材開発（写真5）、現地の教員や研究者との共同授業研究（写真6）などを行っている。さらに、日本の定時制高校でのソーシャルスキルトレーニングや現職の養護教諭を対象とした健康教育、日本の子どもたちの現代的な健康課題に対応するための教師向け講習等も行っている。

## 問題意識

これまでの開発途上国での学校保健、健康教育、環境教育等に関わる実践と研究の経験から、以下の4つの視点に基づく研究と実践の必要性を感じている。

### 1) 教育的視点からの子どもの実態、教師や地域住民のニーズ・課題を明らかにして行く必要性

子どもの健康状態を効率的に改善していくためには、学校での保健活動の実施が有効であることが指摘されてきている。そのため、寄生虫の駆虫や微量栄養素投与など、保健医療者の視点から「学校」という場を利用して様々な保健サービスが提供されている。しかし、多くの開発途上国では、教育現場の実態の把握が十分行われておらず、また統計データの不備等により子どもの健康状態や学校現場で働く教師のニーズ、また、地域の人々のニーズが十分に明らかにされていない現状がある。こうした背景の中、私自身の専門である教育分野の視点を生かして、学校保健活動のキーパーソンとなる教師・子ども・地域住民のニーズを的確にとらえ、「現場での実践」と「研究活動」を往還することで、現場での活動成果や課題を集約するとともに、子どもの健康状態を把握するための国際比較調査を実施し、さらに、得られた成果を政策の立案や改善にフィードバックしていきたいと考えている。

### 2) 類似した社会的・経済的背景を持つ国々で成功事例や共通課題を共有するネットワーク構築の必要性

これまで、アジア（写真7）やアフリカ（写真8）の開発途上諸国で、行政官・国際NGOおよび研究者を対象とした学校保健地域研修の企画・実施、地域内でのネットワークの構築を行ってきた。この経験を通して、開発途上諸国では、経済・人的資源が限られているという共通した課題があることや、経済や社会の開発状況、宗教や文化が類似している国家間では、研究や実践の成果・課題に共通したものがあることを実感してきた。自身が培ってきたアジア、アフリカでのネットワークと、世界の健康政策の立案・実施を牽引する世界保健機関のネットワークを活用して、開発途上諸国の学校保健の成功事例や共通課題を共有すること、また、地域間の情報共有のためのネットワーク体制を構築することができれば、今後の学校保健活動の発展に極めて有効であると感じている。



写真7 アジア学校保健研修での講義の様子



写真8 アフリカ学校保健研修での講義の様子

### 3) 政策分析、人材養成システムの開発を行うことによる持続可能な社会体制構築の必要性

当該分野での開発途上諸国を対象とした研究では、子どもが抱える健康問題（寄生虫感染、貧血、低栄養など）に焦点を当てた研究が多く実施されている。これらの研究において、個別の健康問題の現状や罹患に影響する危険要因が明らかにされてきた。しかし、その具体的な改善には、学校保健政策の策定および実施、またその政策実施上の課題の解明や教師の健康教育の能力向上等による現場レベルでの質的改善が必要となる。また、それぞれの国で学校保健活動を担う人材を養成するシステムを開発していくことで、当該分野の自立的、持続的発展が期待される。現在、申請者らは、ラオスにおいて、教育省や国立大学の教育学部との共同取り組みにより、教員養成機関での学校保健活動、健康教育や環境教育の導入を進めており、確かな手ごたえを感じている。上記の問題意識のもと、学校保健の政策分析や人材育成、そのための養成システムの開発に関わる研究や実践が不可欠であると考えている。

### 4) 日本の優れた学校保健活動の経験を世界的に発信していく必要性

学校保健法の制定をはじめ、給食、防災教育、食育、健康診断、養護教諭の配置など、日本独自の取り組みは、日本の子どもの健康状態の維持増進に寄与する活動であり、長寿国である日本を支える基盤となっているといっても過言ではない。その優れた実践とシステムは、開発途上国のみならず、先進諸国に対しても、その有効性を発信していく価値が十分にあると考えている。今回予定されているWHOへの留学経験で得られる経験とネットワーク生かして研究を行い、根拠に基づく実践を行うことで世界の子どもの健康の改善に寄与していきたい。日本の強みを生かしつつ、世界の子どもの健康の維持増進をリードしていく学校保健、健康・環境教育の研究および実践を行っていききたいと考えている。また、学校保健に関する有用かつ貴重な情報を日本から世界に発信していくことが重要であると考えている

表1：これまでの学校保健、健康、環境教育に関する国際支援活動一覧

期間	国	立場	依頼・協力団体	活動
2002年7月- 2004年7月	ニジェール	青年海外協力隊 (ボランティア)	国際協力機構	学校保健活動の導入 (教員研修、学校保健クラブ、健康教育の教材開発)
2006年6月- 2009年3月	ラオス	プロジェクトマネージャー	日本財団	学童のタイ肝吸虫感染の予防戦略の開発
2009年8月- 現在	ラオス	プロジェクトマネージャー	ラオス国立大学教育学部・ラオス教育省	教員養成機関で使用する健康・環境教育のカリキュラムの開発
2009年3月- 2011年3月	ラオス	プロジェクトマネージャー	りそな・アジアオセアニア財団	教員養成機関で使用する健康・環境教育のカリキュラムの開発
2010年3月- 2011年5月	ラオス	プロジェクトマネージャー	青年海外協力隊を育てる会	健康教育および環境教育に関するワークショップの企画実施
2011年8月- 2011年9月	ネパール	短期専門家	国際協力機構	学校保健政策と実施ガイドラインの改訂
2011年12月	タイ ネパール	短期専門家	国際協力機構	行政官対象の学校保健に関する国家間研修の企画・調整および指導
2011年12月	ラオス ネパール	短期専門家	国際協力機構	行政官対象の学校保健に関する国家間研修の企画・調整および指導
2012年2月	タイ	技術支援 (講師)	マヒドン大学、Partner for Child Development (PCD) (ロンドン大学)、日本国際学校保健コンソーシアム	第1回アジア学校保健地域の企画運営および講師
2013年2月	ラオス	技術支援 (企画・講師)	マヒドン大学、PCD (ロンドン大学)、日本国際学校保健コンソーシアム	第2回アジア学校保健地域研修における企画運営および講師
2013年5月	ケニア	短期専門家	国際協力機構	学校保健プロジェクトにおける健康診断活動に関する研修の企画運営および講師
2013年6月	ガーナ	技術支援 (講師)	東西アフリカ寄生虫センター、PCD (ロンドン大学)	第9回アフリカ学校保健地域研修における講師
2013年12月	ラオス	技術支援 (企画・講師)	マヒドン大学、PCD (ロンドン大学)、日本国際学校保健コンソーシアム	第3回アジア学校保健地域研修の企画運営および講師
2014年4月	バングラデシュ	国内技術支援	国際協力機構	健康診断活動に関する教師用教材の提供
2014年2月	ケニア	短期専門家	国際協力機構	学校保健プロジェクトにおける学校保健クラブに関する研修の企画運営および講師/ 活動評価質問紙の作成